
《参加者レポート》 SIF-Japan 第24回定例勉強会
『SRI事情・入門編 '08』

去る2008/4/24(木)に開催した定例勉強会は大変ご好評をいただきました。
参加された方からのレポートをご紹介します。

-----参加者レポート-----

【SRI事情 入門編】

テーマ： 「社会的責任投資」から「責任ある投資」へ(2008年版)

講師： 高崎経済大学経済学部 教授 水口剛氏(SIF-J理事)

【概要】

1. SRI→RIへ

日本ではまだスタンダードではないSRIだが、世界では「全ての投資に必要なスタンス」としてRI(責任ある投資)が主流になりつつある。

2. PRIに署名した主な機関投資家のうち、公的年金が署名していないのは日本だけ。

3. 真に合理的な投資とは何か？

→社会全体が不安なところで企業が健全でいられるのか？

- ・現在の日本では、周りが何とかするだろうという意識が強いまま。
社会を周りに整備してもらって、そこで一人勝ちしようという企業ばかり。
- ・しかし、社会の整備なしに企業の安定はない。

4. 投資リターンと社会的利益の統合フレームワークの説明

→投資収益(数字)だけではなく、社会の質がどのくらい改善されたかという社会的リターンを同じように評価すべき。

5. 日本の投資に欠けているもの

- ・長期的視野
- ・将来どう跳ね返ってくるか？という想像力
- ・「責任ある投資」の方法論が多様化しているという認識

6. その他

- ・あまり知られていないが、2004年環境配慮活動促進で、企業も国民も

「投資には社会的責任に配慮する責務がある」とされた。

- ・現在の運用の評価に関して、短期的視野しか持てないような方法しかないことは問題。
- ・海外の投資会社では投資先の企業を評価する際、
 - 温暖化対策
 - 人権問題に対する姿勢
 - カーボン
 - トップインタビューなどの個別の問題に対する対応によって評価を行うケースが良くある。一律のアンケートよりも、企業の個性を深く評価できる。日本の投資会社は、大抵一律の共通アンケートのみ。

【感想】

初心者にも分かりやすく、とても勉強になりました。

2008年に入って、大きく世界の情勢が動きつつあるのを感じましたが、残念ながら日本はとても取り残されているらしく、もどかしい気がしました。

オランダなどでは、「ESGを考慮した投資が、長期的には投資利益を最大化すると信じる」という考えの元でPRIに署名したそうです。日本では、100%利益が出る保証がないと動かない企業ばかりという現状に対して、今すぐ数値化出来ない価値を信じて、そこにお金というエネルギーを投入している欧米諸国の意識を大人だな、と思いました。

私個人は、投資というものに直接関わることはないかもしれませんが、買い物をすることも立派な投資であり、その企業への投票だと思いました。消費者として企業やその商品に対して高い意識を持つことが必要だし、自分のお金をどこに流していくのか、ということをつつも意識していこうと思います。

以上（定例勉強会参加者からの寄稿）